

見通しと進化で安定感を作る

岡 篤（兵庫）

久保さんの言葉

久保齋さんが「工夫された授業は迷惑」といったような話をされたことがありました。授業者の工夫を「迷惑」とは、相変わらずの久保節だと笑ってしまいました。

ただし、今回の「学級を安定させる学力づくり・授業づくり」というテーマには、この久保さんの指摘は重要です。

見通しを与える

その後の内容を覚えていないままの引用で恐縮なのですが、おそらく、ここで久保さんが言いたかったのは、授業者の努力・工夫を否定するというものではなかったはずで、学習者に見通しを持たせるということだったように思います。

授業者が展開を工夫することで、子どもは「何だろう」「どういうことかな」と興味を引かれる一方、どうしても次の指示なり、

発問なりを待つことになりがちです。

同じパターンで授業を進めていけば、子どもは、次にすることを予想して行動する場面が出てきます。

「おにっこ」の工夫の無い展開

二年生の国語の教科書（光村）に「おにっこ」という説明文があります。この教材での工夫の無い私の展開を紹介します。（なんか、ちよつとひっかかりますが）

説明文によくある最初の段落に、問いの文があります。次の二つです。

・どんなあそび方があるのでしょうか。
・なぜ、そのようなあそび方をするのでしょうか。

第二段落から第五段落までは、この問いの文に対する説明が続きます。第六段落が

最後のまとめになっています。

私は、毎時間、二つの問いの文を黒板の端に書きました。この端の部分は、子どもには、「思い出すための確認のメモだから、ノートに写す必要がないところ」と説明しています。

授業のはじめは、「問いの文はなんだ？」から始まります。最初は、さつと答えられるのは数人がよいところです。

毎時間、少しずつ増えていき、最後は全員がさつと、と言いたいところですが、なかなかそうはいきません。

それでも、ほとんどの子の頭には、「問いの文」が入っているようになりました。板書も同じパターンで続けます。

第二段落 学習の型を教える

第二段落では、「どんなあそび方」に対する説明として、「にげてはいけないところをきめる」が出てきます。それを書きます。

それから矢印で、「なぜ、そのような遊び方」に対する説明の「おには、にげる人をつかまえやすくなります」を書きます。

書いてしまえば簡単ですが、もちろん「ど

②
にげてはいけないところをきめる

にげる人をつかまえやすくなる

んな遊び方があるでしょう、の説明はどの文ですか」「なぜ、そのようなあそび方をするのですか、の説明の文はどれですか」といった発問をした上で、考える時間をとり、教科書の文を検討していくので、ある程度の時間がかかります。

特に第二段落では、私の発問の意味が分からない子もいるので、なかなか進みません。ここで、いつまでも子どもに考えさせていても進まないの、最後は「先生の考えは」と板書します。

第三段落 型を使うことを意識させる

次の時間は、第三段落です。「問いの文はなんだったかな？」から始め、次に、「先生は、何をみんなに聞くでしょう？」と尋ねます。同じ型で授業を進めることを意識させているわけです。

前の時間のノートを見たり、教科書を読み直したりしているうちに、子どもから、「どんなあそび方、が書いてある文はどれでしょう」が出ました。出なければ、私が言う予定でした。「にげる人だけが入れるところを作ったり、つかまらないときをきめたりする」を書きました。

続いて、「次は、何を書くでしょう」です。答えは、矢印です。矢印の使い方は、色々ですが、この教材での使い方は、第二段落でやったようにしました。

そろそろ、何も言わなくても、次にやることを予想できている子が出てきます。「次に書くことが分かる人」で、半分くらいの子が手を挙げました。

答えは、「すぐにはつかまらずにあそぶことが出来る」です。

進化・成長の実感を持たせる

このパターンで毎時間進めていくと、どんどんできる子が増え、時間も短くてすむようになります。四回目の第五段落では、授業の始まりから、「先生、何にも言わなくてもいいよ」という子が出てきます。

もちろん、スムーズにできない子もいます。その子の状態を把握して、アドバイスをしたり、教えたりします。理解している子が増えるほど個別指導もやりやすくなっています。

授業の型を教えることで見通しを与えます。そして、教師の指示を減らし、自分で型を使いこなす部分を増やすことで進化・成長の実感を持たせます。

何の変哲もない平凡な展開ですが、子どもたちは自己肯定感を持つことができたのではないかと考えています。

応用

他の教材や活動の場面でもこの発想は有効です。子どもは自分ができたり、判断したりすることが増えることで意欲も高まります。教師はそれに比例して時間的にゆとりが出てくるというメリットもあります。

今、気がつきました。展開はシンプルですが、さじ加減という意味で、これはとても「工夫」が求められる指導です。(すっきりした！)